

## オピニオン

# 一側性難聴への対応：最近の進歩

曾根三千彦\*

現在全世界で約 5 人に 1 人が難聴に罹患しており、2050 年には約 4 人に 1 人まで増加するとされている。その中には先天性の難聴もあり、本邦では出生 1,000 人に 1~2 人の割合である。難聴と認知症に関する最近の論文では、適切な対策で認知症の予防や発症を遅らせることが可能なリスク因子のうち、中年期の難聴の寄与度が最も高いことが報告されている<sup>1)</sup>。最近我々が行った調査でも、人工内耳装用により長期に認知機能が保たれることが判明している<sup>2)</sup>。難聴に対する対応として、服薬や手術、補聴器や人工内耳、リハビリテーションやサインランゲージ、字幕サービスを含む聴覚支援機器などがあり、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会でも 80 歳で 30dB の聴力を保つ啓発活動(聴こえ 8030 運動)を促進している。

健常では、両耳で音を聴く「両耳聴」が一般的である。両耳聴にはいくつかの利点があり、まず音源定位が向上する。さらに、音声と雑音の大きさの差がより大きい側の耳で聴取できる「頭部遮断効果」、話しことばと環境音の両方を受け取り、聴きたくない音や不要な音を抑制する両耳スケルチ、一側で聴くより音が 6~10 dB 大きく知覚される両耳加算効果、脳が音を二つの「見方」で聴く両耳冗長性が挙げられる。

今まで難聴対策の主体は両側性難聴であり、良聴耳での聞き取りが可能な一側性難聴に対して十分な検討や対策がされてこなかった。本邦における先天性一側性難聴の原因としては、蝸牛神経低形成や欠損が最も多く、ムンプス、先天サイトメガロウイルス感染、内耳奇形などがある。一方、言語習得後の一側性難聴の原因として突発性難聴が約半数を占め、その他に慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎、小脳橋角部腫瘍がある。日常生活において、一側性難聴は会話に不自由しないと思われがちである。実際には騒音下や多人数での会話などの環境下での不自由さがあるものの、その詳細は把握されていないのが現状であった。最近の調査で、両側性難聴に比べると小さいとはいえ一側性難聴でも不利益があり、特に言語習得後に発症した成人例では不利益が大きく、社会生活や日常生活における QOL の低下を来し、生活上の配慮や医療的・福祉的な介入の必要性が高いことが明らかになってきた。一側の軽度・中等度難聴に対しては補聴器が有用であるが、高度難聴においてはその効果にも限界がある。難聴側につけた集音マイクで音を受け取り健聴耳で聞き取るクロス補聴器もあるが、その適応は限定的である。

人工内耳手術は 1985 年に日本で初めて実施され、1994 年に両側性高度難聴に対しての保険適用が認められた。1998 年作成された人工内耳手術適応基準では、成人は両側 90dB 以上、小児は両側 100dB 以上の重度難聴で一側耳のみが対象であった。2014 年低周波数域の聴力が残存して

— Key words —

一側性難聴, 不利益, 医療介入, 人工内耳

\* Michihiko Sone : 名古屋大学名誉教授

いる症例に対し、従来の電気刺激機能に加え音響刺激機能も兼ね備えたハイブリッド型の人工内耳(残存聴力活用型人工内耳)が保険収載された。その後、小児人工内耳適応年齢の引き下げや両耳装用の推奨、両側聴力が70以上90dB以下でも補聴器装用下の最高語音明瞭度が50%以下の高度感音難聴も対象に追加された。すでに欧米では承認されていた一側性高度難聴に対する人工内耳手術であるが、本邦でも先進医療として前向き臨床試験が開始され、人工内耳装用により一側性高度～重度感音難聴者の雑音下語音聴取能や音源定位は改善し、耳鳴抑制効果とQOL改善にも有効であることが判明した<sup>3)</sup>。2026年3月、一側性高度難聴および良聴耳が軽度難聴の非対称性難聴に対して人工内耳手術が保険適用となった。今後、一側性難聴に対する

適確な評価とより適切な医療介入が促進されることが期待される。

### 利益相反

本論文に関して、筆者に開示すべき利益相反はない。

### 文献

- 1) Livingston G, et al : Dementia prevention, intervention, and care : 2024 report of the Lancet standing Commission. The Lancet 2024 ; 404(10452) : 572-628.
- 2) Yoshida T, et al : Cognitive function and speech outcomes after cochlear implantation in older adults. Front Neurol 2025;16:1630946.
- 3) Takahashi M, et al : The advance medical care outcomes for cochlear implantation in single-side deafness. Auris Nasus Larynx 2025 ; 52 : 535-542